

7. 堰と周辺地域との関わり

7. 堰と周辺との関わり

7.1 堰周辺の概況

7.1.1 堰周辺地域の概要

(1) 概要

九頭竜川流域は、本州日本海側のほぼ中央にあり、福井県嶺北地方に位置している。流域には、福井市をはじめ福井県の7市4町と岐阜県郡上市の一部が含まれている。流域面積は、福井県面積の約70%に相当する2,930km²である。また、山地と平地の割合は、福井平野などの平地が約22.2%であり、残りの約77.8%が山地である。

流域の主流である九頭竜川は、幹川流路延長116kmを有し、北陸地方屈指の大河川であるとともに、この地域を代表する「母なる川」として古くから人々の生活と密接な関わりを持ち、親しまれてきた河川である。九頭竜川の源は、福井県と岐阜県の県境の油坂峠(標高717m)に発し、九頭竜峡谷を経て大野盆地を北流し、大野市と勝山市との境付近で左支川真名川を合わせ、永平寺町鳴鹿にて福井平野に入り、そこから西流する。そして、福井市高屋において左支川日野川を合流し、流れを北西に転じ坂井市で日本海に注いでいる。

鳴鹿大堰は、九頭竜川の河口から約29km上流に位置しており、洪水の安全な流下と利水補給を目的としている。堰およびその貯水池の右岸側は坂井市、左岸側は永平寺町であり、下流には福井市が位置している。

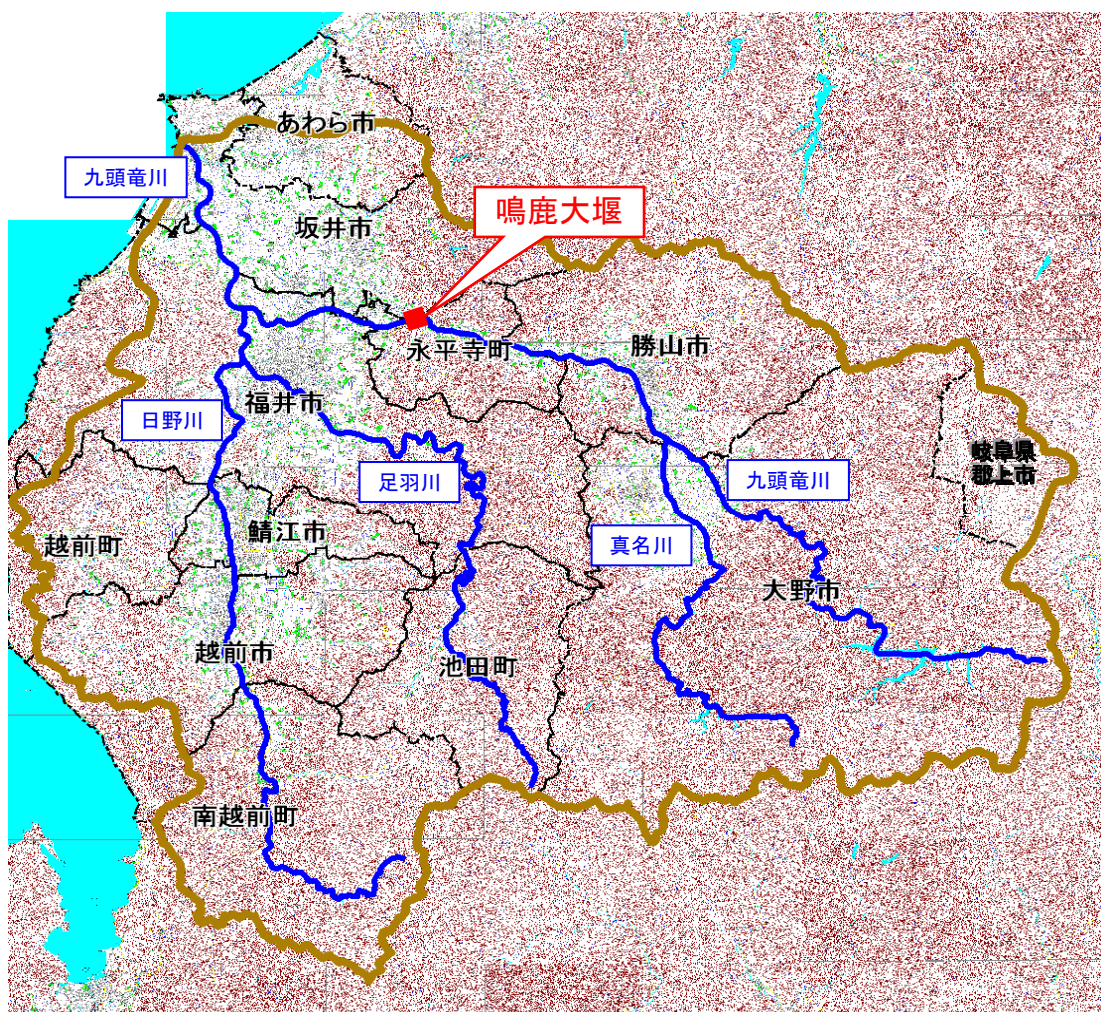


図 7.1-1 鳴鹿大堰周辺の概況

(2) 人口

九頭竜川流域内に位置する市町村、並びに福井市、坂井市、永平寺町における人口と世帯数の昭和30年(1955)から平成22年(2010)までの間の推移は、以下に示すとおりである。

流域内に位置する市町村の人口は昭和30年には約66万人であり、微増傾向を示してきたが、平成12年の約73万人をピークに近年では減少傾向に転じている。一方で、世帯数は増加傾向を続けており、核家族化が進んでいることが伺える。

また、鳴鹿大堰の近隣の市町村では、福井市が平成7年、坂井市が平成17年、永平寺町が平成12年にそれぞれ人口のピークを迎え、その後、減少に転じている。

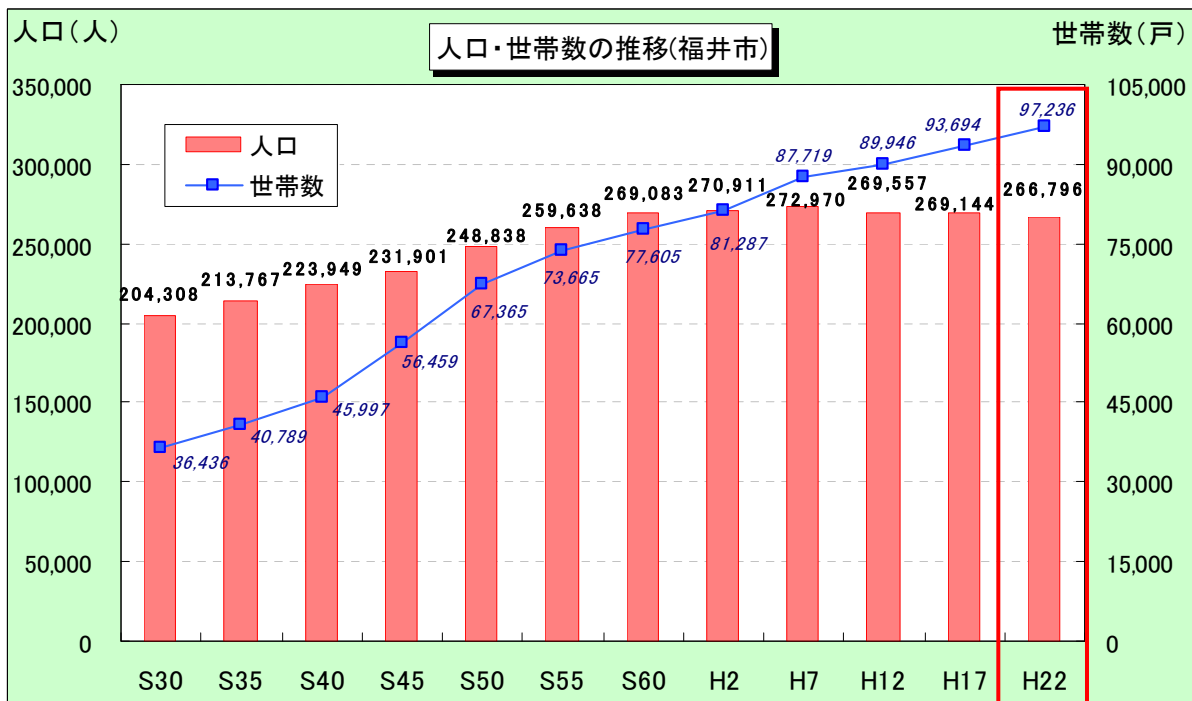
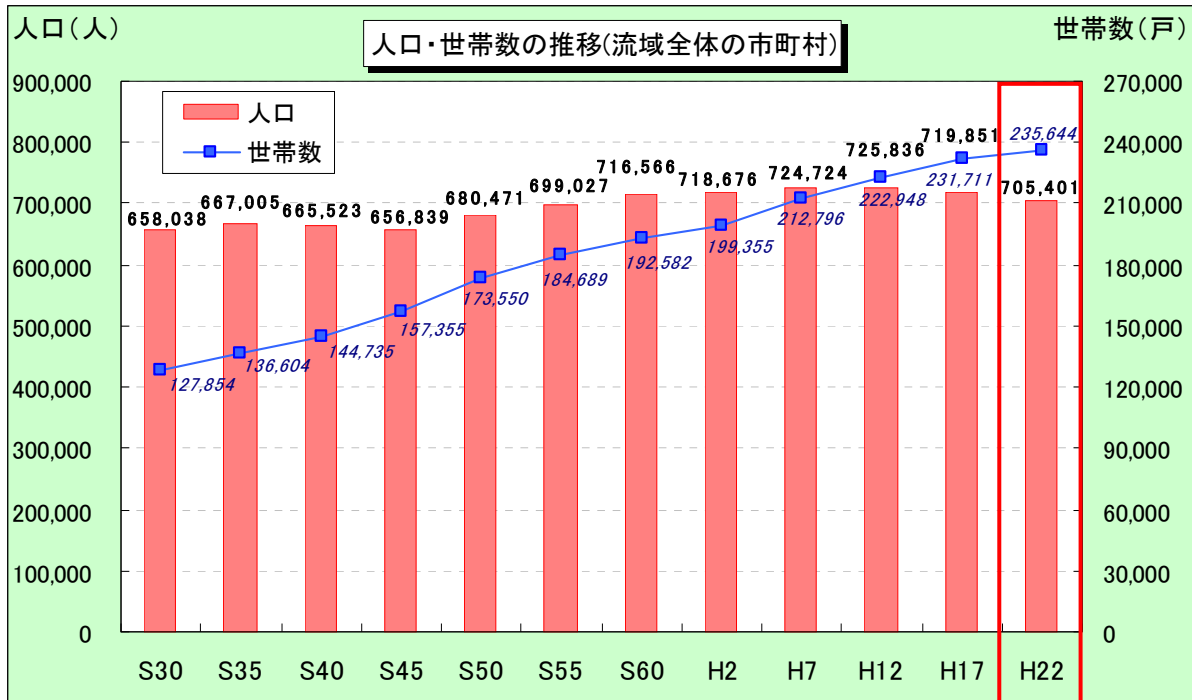


図 7.1-2 (1) 人口及び世帯数の推移

【出典：国勢調査結果、福井県統計年鑑、岐阜県統計書】

7. 堰と周辺との関わり

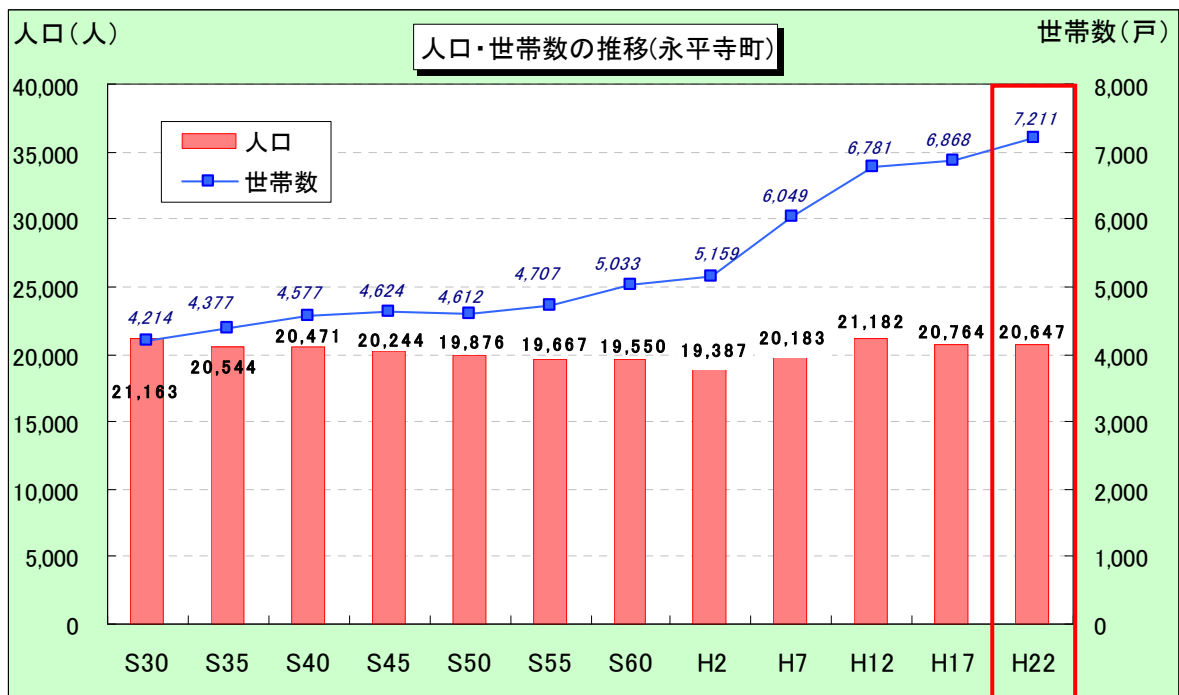
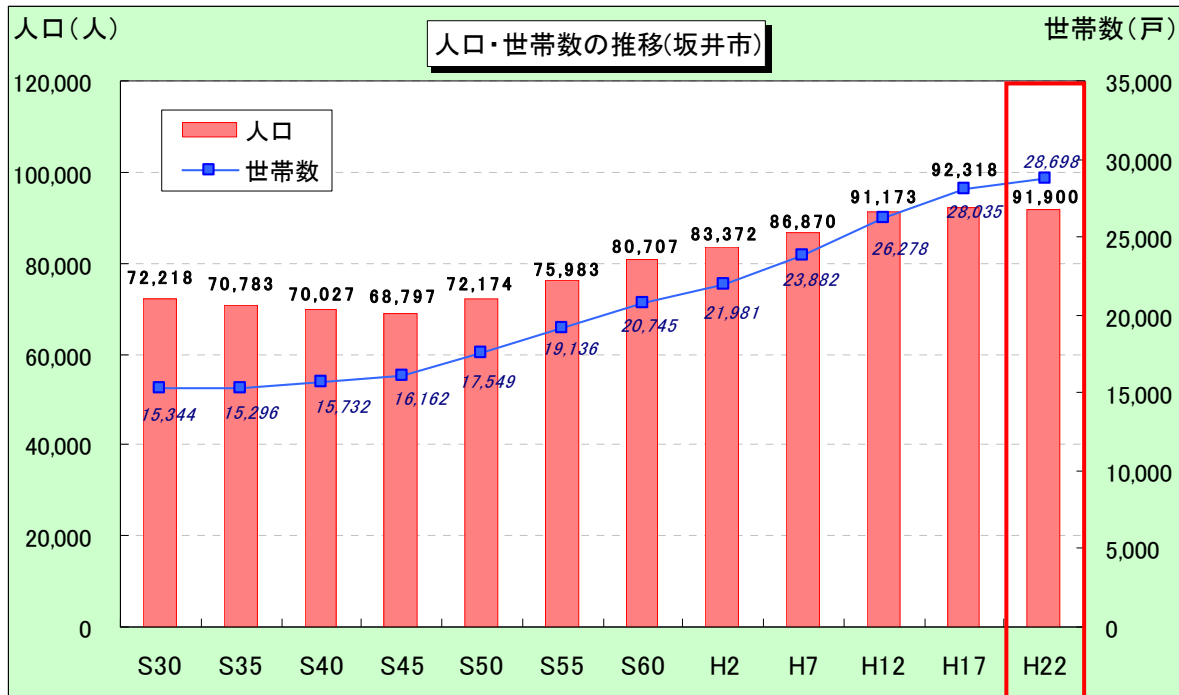


図 7.1-2 (2) 人口及び世帯数の推移

【出典：国勢調査結果、福井県統計年鑑】

(3) 産業

流域内に位置する市町村、並びに福井市、坂井市、永平寺町における産業別就業人口の昭和40年(1965)から平成22年(2010)までの間の推移は、以下に示すとおりである。

就業者人口は、流域全体および福井市、永平寺町においては、平成7年をピークに減少傾向を示している。坂井市では福井市等からの移住者等により、平成17年までは増加傾向にあったが、平成22年には減少に転じた。

産業別では、平成22年には第3次産業が全体の約60%強を占めており、第2次産業が30%強、第1次産業が約5%を占めている。近年の増減傾向を見ると、いずれの自治体でも1次産業、2次産業の就業人口は減少しており、3次産業は福井市では微減、坂井市と永平寺町では微増を示している。

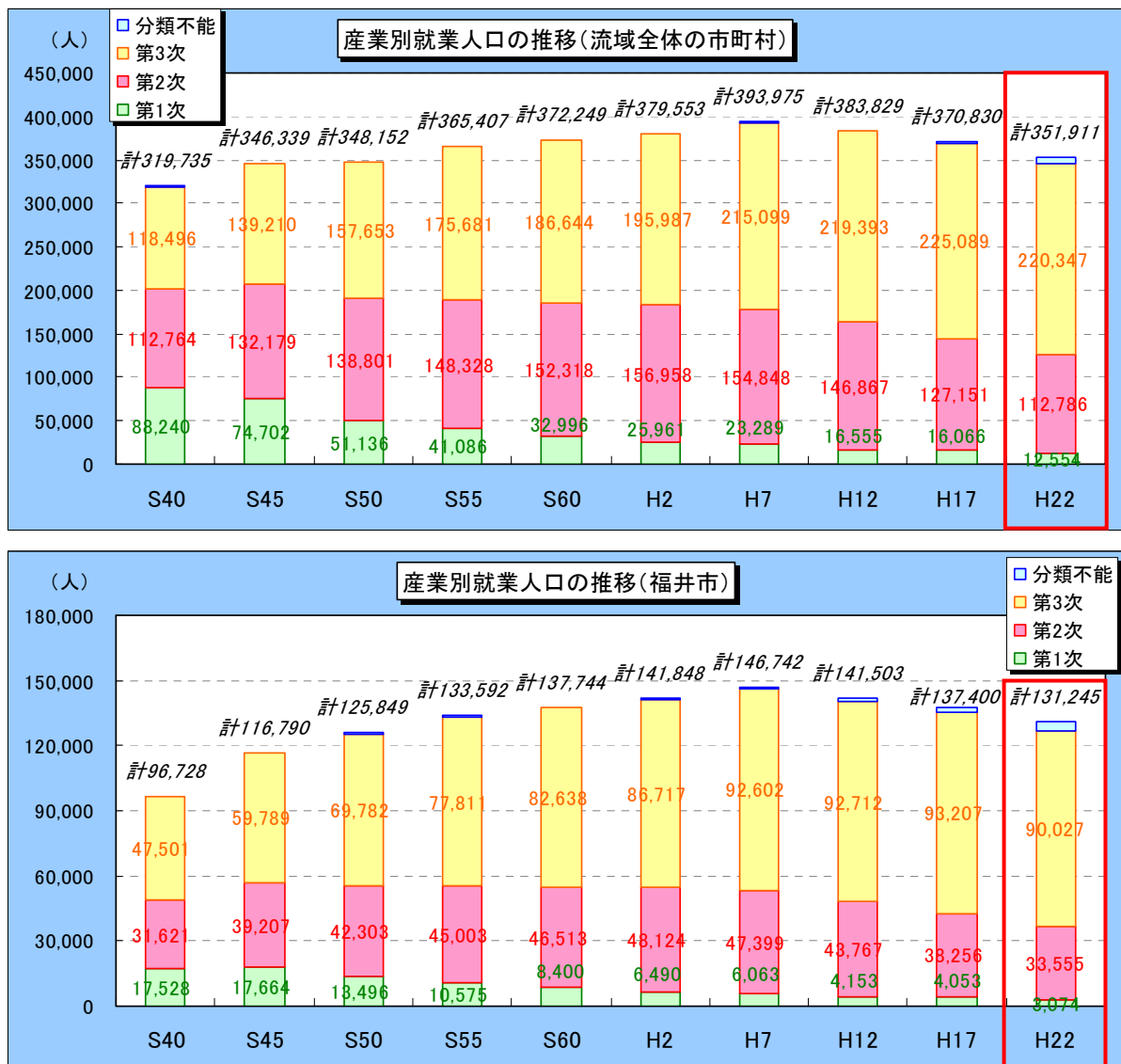


図 7.1-3 流域全体及び福井市の産業別就業人口の推移

【出典：国勢調査結果、福井県統計年鑑、岐阜県統計書】

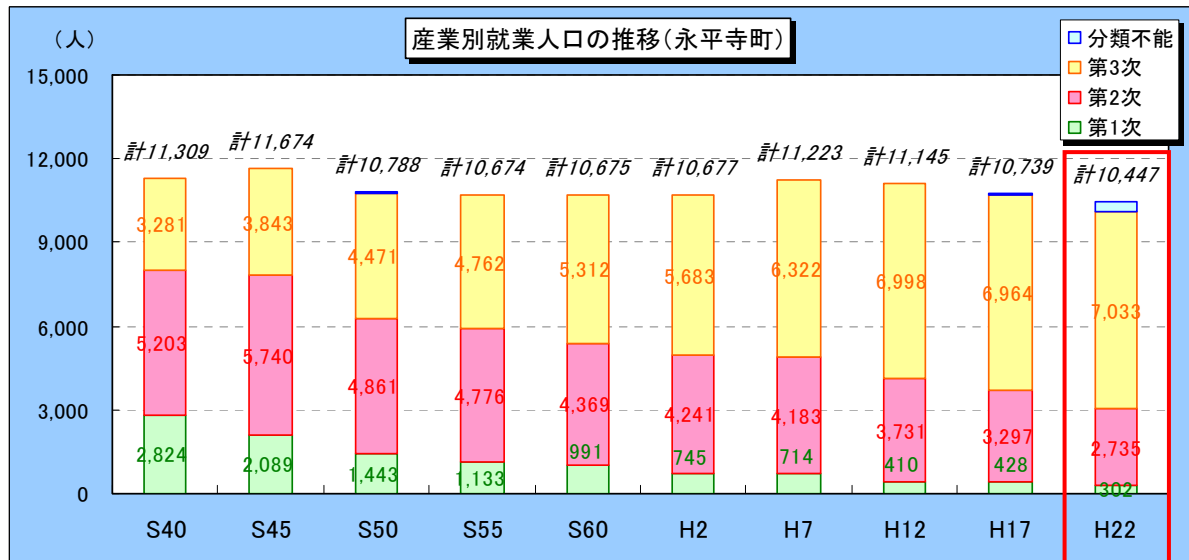
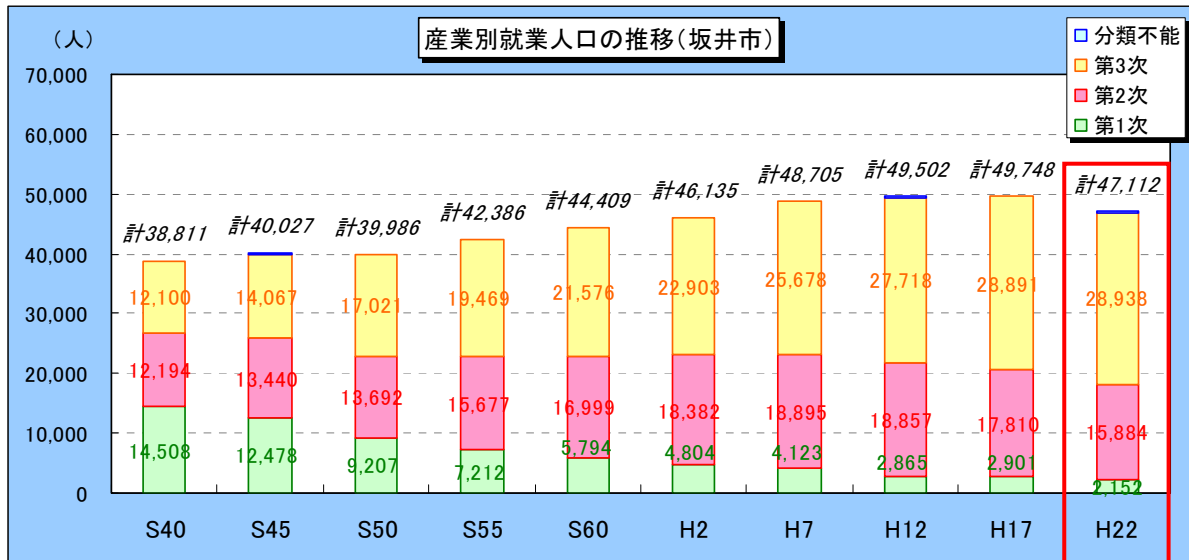


図 7.1-4 坂井市及び永平寺町の産業別就業人口の推移

【出典：国勢調査結果、福井県統計年鑑】

7.1.2 堰の立地特性

(1) アクセス性

鳴鹿大堰は、九頭竜川の河口から約 29km 上流の坂井市と永平寺町の境に位置している。

鳴鹿大堰付近の交通網は図 7.1-5 に示すとおりであり、道路としては国道 416 号及び 364 号が近接して通り、堰から西へ約 3.5km の地点には北陸自動車道が南北に走っている。鉄道としては、堰の西方約 9km の地点を南北に JR 北陸本線が通り、福井駅から勝山へ向かう「えちぜん鉄道・勝山永平寺線」が九頭竜川の左岸沿いを通っている。

鳴鹿大堰へのアクセスは、鉄道利用ではえちぜん鉄道勝山永平寺線永平寺口から徒歩 15 分、車では北陸自動車道福井北インターチェンジから国道 416 号を通り約 15 分（約 5km）、JR 福井駅から約 25 分（約 11km）となっている。

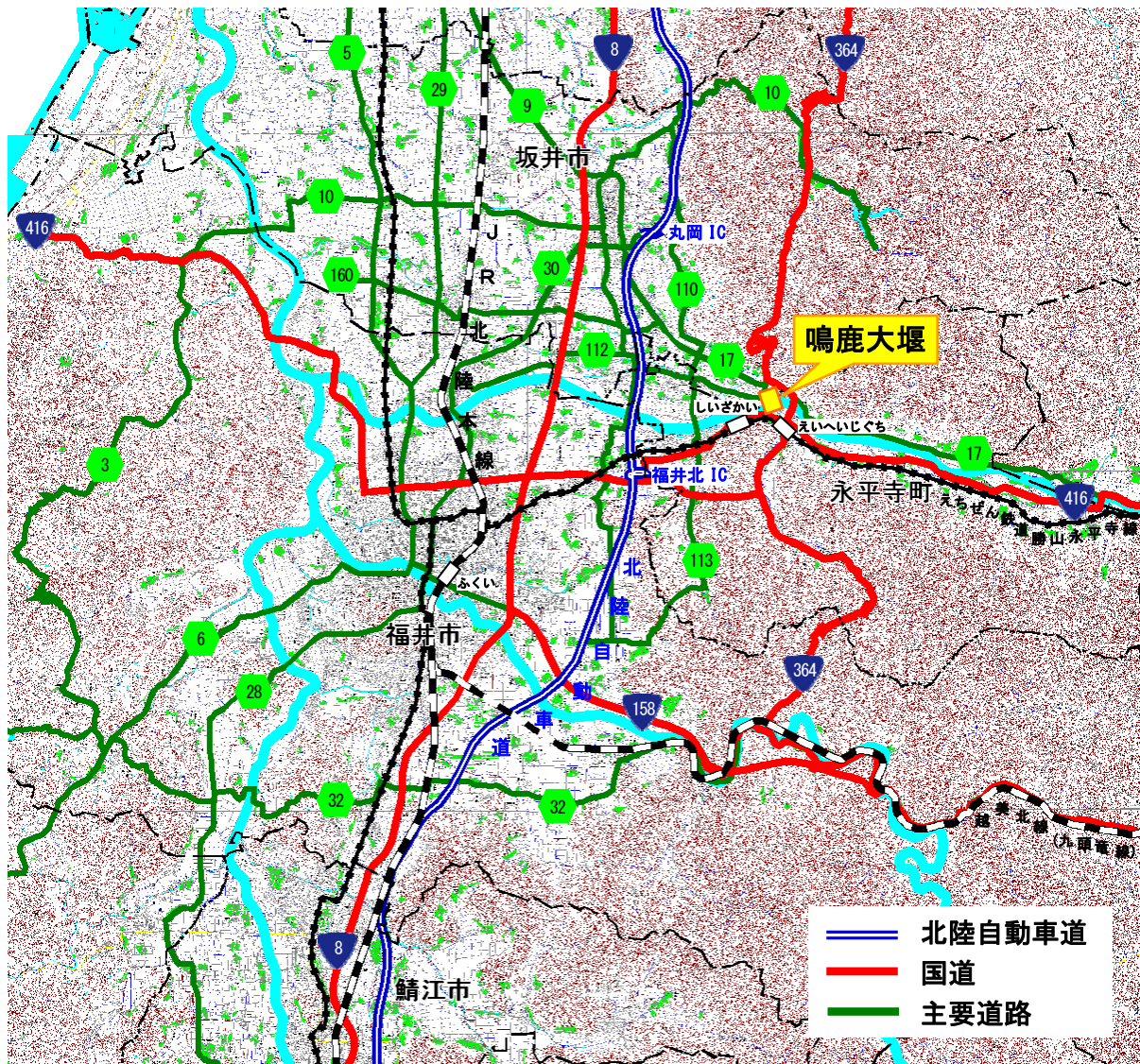


図 7.1-5 鳴鹿大堰周辺の交通網

7. 堰と周辺との関わり

(2) 周辺の観光施設(スポット)等の状況

九頭竜川流域は、歴史・文化や水と緑などの自然に恵まれた観光地が多く点在し、平成24年度には福井県内で年間約1,613万人(福井県全体の約2,295万人の約70%)の観光客が訪れており、その代表的な観光資源としては以下が挙げられる。

【九頭竜川流域の代表的な観光資源】

天下の絶景として有名な東尋坊、全国的にも名高い芦原温泉をはじめとする各地の温泉、中世を今に伝える一乗谷朝倉氏遺跡・永平寺・平泉寺・丸岡城、恵まれた森と水を生かしたアウトドアレクリエーションが満喫できる九頭竜湖と九頭竜国民休養地や六呂師高原などといったキャンプ村・スキー場、北陸の秋の風物詩として人気の高いたけふ菊人形、広大な芝生の中にパットゴルフ場やオートキャンプ場などがあり1年中楽しめるレジャーランドの芝政ワールド、恐竜に関する国内最大級の規模を誇る福井県立恐竜博物館、等が挙げられる。



図 7.1-6 主な名所・旧跡及び古社寺等の位置

表 7.1-1 観光入込の推移

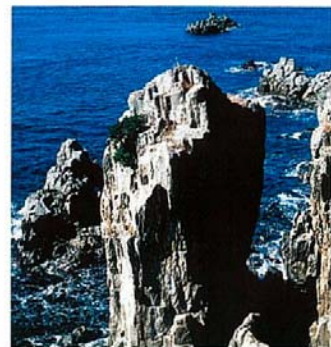
年次	観光入込客数（千人）		
	福井県全県	九頭竜川流域	全県に占める割合（%）
H21	24,945	17,303	69.4
H22	25,342	17,850	70.4
H23	23,108	16,251	70.3
H24	22,954	16,125	70.2



大野城（大野市）



丸岡城（坂井市）



奇岩・奇磯が連なる東尋坊（坂井市）



西山公園（鯖江市）



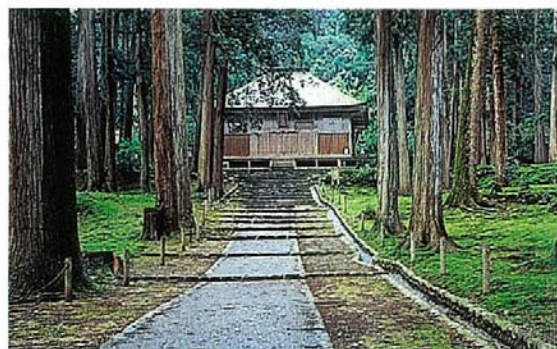
プラントピア（越前町）



謡曲「花籠」の舞台ともなった花籠公園（越前市）



狭野茅上娘と中臣朝臣宅守との相聞歌碑が建つ味真野苑（越前市）



白山平泉寺（勝山市）

【出典：九頭竜川流域誌 水との闘い そして共生】

定期報告書(案)

7. 堰と周辺との関わり



足羽川左岸堤防の桜 (福井市)



勝山橋上下流の弁天堤の桜 (福井市)



福井県総合グリーンセンター (坂井市)



福井藩主の菩提寺である大安禅寺 (福井市)



歴代藩主の廟所がある千畳敷 (福井市)



一乗谷で復元された武家屋敷と町屋 (福井市)



江戸中期の代表的庭園養浩館 (福井市)



三間社流造りの滝谷寺 (坂井市)



曹洞宗大本山永平寺 (永平寺町)



複雑な形をした屋根の大湊神社 (越前市)



江戸初期の秀麗な姿をとどめる劔神社 (越前町)



楼門形式の山門のある宝慶寺 (大野市)



継体天皇を合祀する三国神社 (坂井市)



継体天皇を合祀する足羽神社 (福井市)

【出典：九頭竜川流域誌 水との闘い そして共生】

7.2 堰事業と地域社会情勢の変遷

鳴鹿大堰関連事業と地域社会情勢の変遷の概況は表 7.2-1 に示すとおりである。

表 7.2-1 鳴鹿大堰事業と地域社会情勢の変遷

年	鳴鹿大堰関連事業	地域の出来事
H 元.	5月 実施計画調査に着手。 福井工事事務所に開発調査課(鳴鹿大堰担当)設置。 九頭竜川本川区域延長 1.6km。合計 31.2km となる。	福井市市制 100 周年記念式典 福井市都市景観基本計画策定
H 2	1月 九頭竜川中流堰建設促進期成同盟会が発足 6月 九頭竜川鳴鹿大堰建設事業に着手 12月 大野市がダム使用権設定について申請書提出	足羽川・足羽山公園が「日本の桜百選」に選定、桜つつみ事業着手
H 3	11月 基本計画告示(事業費 280 億円、工期平成 8 年度)	足羽山トンネル完成 一乗谷朝倉氏庭園が国の特別史跡に指定
H 4	11月 鳴鹿大堰起工式 右岸取水施設改築工事着手	第四次福井市総合計画スタート
H 5	3月 左岸取水施設改築工事着手	
H 6	3月 九頭竜川鳴鹿大堰本体着工 本体ゲート着工	すかつとランド九頭竜オープン
H 7	3月 中部漁業協同組合と、漁業補償の契約を締結 4月 九頭竜川鳴鹿大堰定礎式 6月 本体内右岸部概成 10月 本体内左岸部概成	
H 8	6月 堰本体概成	
H 9	3月 九頭竜川鳴鹿大堰建設に伴う鳴鹿頭首工(取水施設を含む)の工事施行の変更協定書を締結。	
H 10	2月 基本計画変更が官報告示される。	
H 11	3月 試験湛水(暫定運用)開始 通水式挙行 10月 旧堰撤去(左岸部)工事着手	
H 12	8月 左岸魚道完成	
H 13	6月 旧堰撤去(右岸部)完了	
H 14	4月 資料館がオープン	21 世紀を拓くふくい創造プラン(第5次福井市総合計画)スタート
H 15		えちぜん鉄道全線開通
H 16	3月 竣工	福井豪雨災害発生

【出典：九頭竜川鳴鹿大堰工事誌、福井県ホームページ】

7. 堰と周辺との関わり

7.3 堰と地域の関わりに関する評価

7.3.1 地域における堰の位置づけに関する整理

(1) 坂井市総合計画

平成 18 年 3 月 20 日、旧三国町、旧丸岡町、旧春江町、旧坂井町は、地理的、歴史的特性を共有しつつ、地域の特性を活かしながらより広域的な視点でまちづくりを推進していくことを目指して合併し、「坂井市」が誕生した。坂井市では、市の行政運営の指針となる「坂井市総合計画」を策定している。

同計画では、まちづくりの方針として 3 つの軸を定めており、そのうち「水と緑の交流軸」では、福井県のシンボル河川である九頭竜川等を活かし、親水空間などの整備に努め、水と緑の交流軸を形成していくとしている。

● 3つの軸

■にぎわいの連携軸

東西に長い坂井市の一体性や連携を強化するため、東西方向の骨格道路網を形成し、住民相互の日常的な交流や文化交流などを促進するとともに、坂井市の活力を創造する都市活動、観光交流などを展開します。

■南北交流軸

一般国道 8 号をはじめとする南北方向の骨格道路網を充実し、地域や圏域を越えた広域的な交流を推進していきます。

また、坂井市域内においても幹線道路の拡幅整備や沿道環境整備に努め、住民相互の日常的な交流や文化交流などの促進、活力を創造する都市活動などを展開し、市域内の連携と一体性を高めていきます。

■水と緑の交流軸

緑豊かな森林地域を源流とする竹田川や福井県のシンボル河川である九頭竜川、坂井平野を潤す数々の河川、さらには農業用水路のパイプライン化にともなう跡地を活かし、散策路や自転車道、親水空間などの整備に努め、水と緑の交流軸を形成していきます。

図 7.3-1 坂井市総合計画 まちづくりにおける3つの軸

【出典：坂井市総合計画 平成 20 年 3 月】

(2) 永平寺町総合振興計画

平成 18 年 2 月 13 日に旧松岡町、旧永平寺町、旧上志比村の 3 町村が合併し、「永平寺町」が誕生した。永平寺町では、平成 20 年度以降 10 年間のまちづくりの指針として、「永平寺町総合振興計画」を策定している。

同計画では、産業の活性化のため、九頭竜川などの地域の資源を活かした観光の振興など地域の特色と産業の融合を図っていくことを掲げている。

【出典：永平寺町総合振興計画 平成 20 年 3 月】

7.3.2 地域と堰管理者の関わり

九頭竜川流域防災センターでは、鳴鹿大堰と九頭竜川に親しみながら自然を学ぶための環境学習を実施しており、地域との交流を図っている。

九頭竜川・子どもたち環境調査

生き物多く、きれい

福井市と永平寺町の九頭竜川で24日、水生生物を指標とする水質調査が行われ、子どもたちが生き物や水質など河川環境



網に入った生き物をのぞく子どもたち＝永平寺町の九頭竜川

への関心を高めた。午前中に永平寺町の九頭竜川右岸を訪れた子どもたちは、ひざ丈ほどの緩やかな流れに入った。網やざるでオイカワの稚魚、ヌマエビ、シマドジョウなどを捕獲。石をめぐり、潜んでいるトビケラやカゲロウなどの幼虫も捕まえた。簡易キットを使い水質も調べた。田中興裕君（福井市河合小5年）は「思ったより、たごんの生き物が捕れ、水もきれいだった。夏休みの自由研究としてまごめます」と笑顔を見せつけた。指導した福井高専の奥村充司准教授（環境工学）は「九頭竜川の生物の多様性があらためて確認できた」と話していた。

国土交通省福井河川国道事務所が1984年から開いており、今年は小中高生と保護者28人が参加した。午後は福井市の九頭竜川に場所を移し同様の調査を行った。

【出典：福井新聞 平成24年7月30日】

7. 堰と周辺との関わり

7.4 堰周辺の状況

7.4.1 堰周辺の施設状況

(1) 概要

鳴鹿大堰周辺の施設としては、九頭竜川に関するさまざまな資料を展示している九頭竜川流域防災センター、階段式魚道の様子がみられる魚道観察室、旧鳴鹿堰堤の堰柱を利用して造られた見学橋、鳴鹿橋上流部左岸側（30.5～30.9km 付近）に設けられたビオトープ等を整備した。

(2) 九頭竜川流域防災センター（愛称：わくわく RiverCan）

「九頭竜川流域防災センター（愛称：わくわく RiverCan）」は、鳴鹿大堰左岸にある鳴鹿大堰管理所脇に建設され、平成 14 年 4 月 27 日にオープンした。この資料館は、地域の子供たちが九頭竜川について体験的に学べるよう、九頭竜川に関する様々な資料を展示するとともに九頭竜川流域の方々が集える場所として活用することを目的としており、NPO 法人「ドラゴンリバー交流会」とも連携している。



図 7.4-1 九頭竜川流域防災センターの外観

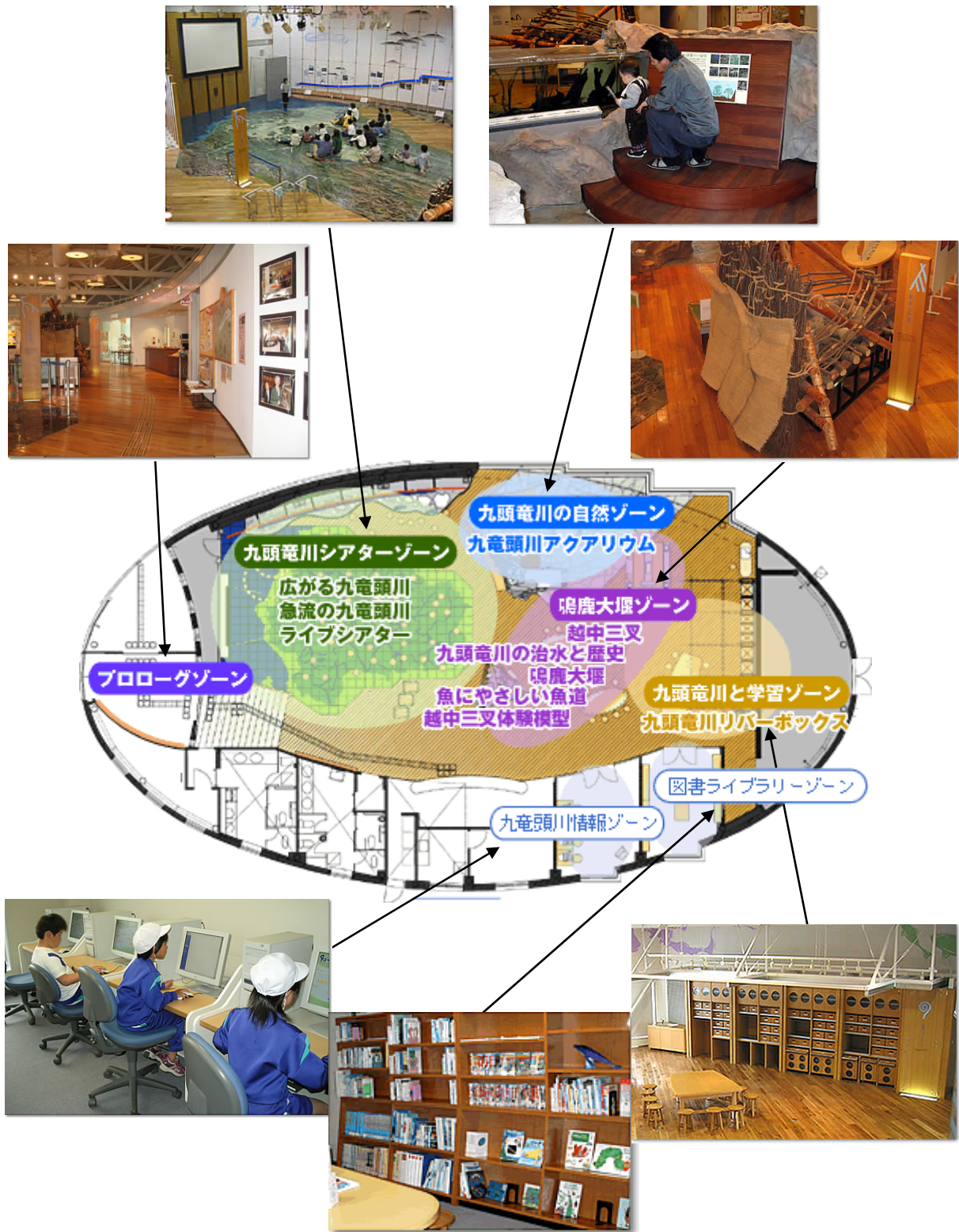


図 7.4-2 九頭竜川流域防災センターの展示施設

7. 堰と周辺との関わり

(3) なるほど！鳴鹿大堰ふれあいゾーン

「なるほど！鳴鹿大堰ふれあいゾーン」は、鳴鹿大堰管理所1階のエントランス部を利用した展示施設である。鳴鹿大堰管理所エントランス部は、完成当初より鳴鹿大堰の役割やしぐみについて解説するための展示スペースとして利用されていたが、平成17年度に展示内容の更新が行われ、より一層充実した内容となった。

展示は鳴鹿大堰の歴史、鳴鹿大堰の役割、鳴鹿大堰魚道のしぐみについて解説するものであり、電動模型や映像などを活用し、子供から大人まで楽しめる内容となっている。



図 7.4-3 「なるほど！鳴鹿大堰ふれあいゾーン」

(4) 魚道観察室

鳴鹿大堰には、階段式魚道、人工河川式魚道（平常用）及びデニール式魚道（渇水時の呼び水水路の水量減少時）の3種類の魚道が設けられており、魚が魚道をのぼっていく様子を観察できるよう、階段式魚道の横に観察室が設置されている。魚道観察室は一般に開放されており、九頭竜川流域防災センターと一体の運営が行われている。また、魚道にはライブカメラが設置されており、九頭竜川流域防災センターの中からも魚道の様子を観察することができる。



(5) 見学橋

旧鳴鹿堰堤は、昭和29年に完成し、福井平野の利水にとって約半世紀の歴史ある施設であったため、利水の歴史を残す意味からも、旧鳴鹿堰堤関連施設のうち、利用可能な管理橋・堰柱を完全に撤去せず、見学橋としてほとんど原形で使用している。

見学橋からは、堰直上流から鳴鹿大堰を眺望することができ、全国的に見ても珍しい施設である。



図 7.4-4 一般解放区及び見学橋の外観

(6) ビオトープ

鳴鹿橋上流部左岸側 (30.5~30.9km 付近) に「自然な河川草地のビオトープ」をコンセプトにビオトープを整備した (平成 14 年 5 月完成)。

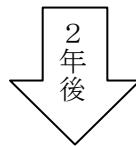


図 7.4-5 ビオトープの整備位置

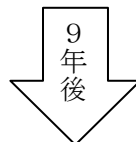
表 7.4-1 ビオトープの整備方針

整備方針	
植生	九頭竜川流域でよく見られる「自然な河川草地」を復元する中で、環境教育の場をつくり、周辺流域にある重要種を保存する場を確保する。 ○基本的植生：ツルヨシ、クサヨシ、オギ、ミゾソバ等 ○重要種植生：カワヂシャ、フジバカマ、ミクリ
基本的植生を復元する区域	手入れを行い安全に子供たちが入ることのできる場所と、より自然な姿で管理する場所に区分する。高木植栽が可能な箇所でのカワヤナギ、タチヤナギの復元、また堤防側のエノキ林の復元を検討する。
湧水池の築造	湧水池は水質の変化による環境の多様化を意図して、水位の異なる3つの池に分割する。
高水敷の地形	現状の棚田状地形を利用し、わずかな高低差をつけることで、植生を多様化する。
草本類の移植	地域に特有の遺伝子を残す意味で、現場に生えている草本類を地下茎ごと取って保管し移植する。
住民参加	自然環境の復元を住民参加の移植作業等により促進し、河川敷の自然環境を住民参加の管理により維持していく。
子供たちとの関わり	計画地周辺のモニタリング調査を近隣の小・中学校の課題とし、ビオトープの生物学的な評価を任せることも考えられる。さらに、その結果からビオトープの目標生物についてさらに詳しく検討することは、地域住民との双方向的なコミュニケーションを重視した、柔軟な河川環境整備手法である。

○ 整備直後の状況



○ 整備 2 年後の状況



○ 整備 11 年後の状況



図 7.4-6 ビオトープの整備状況

7. 堰と周辺との関わり

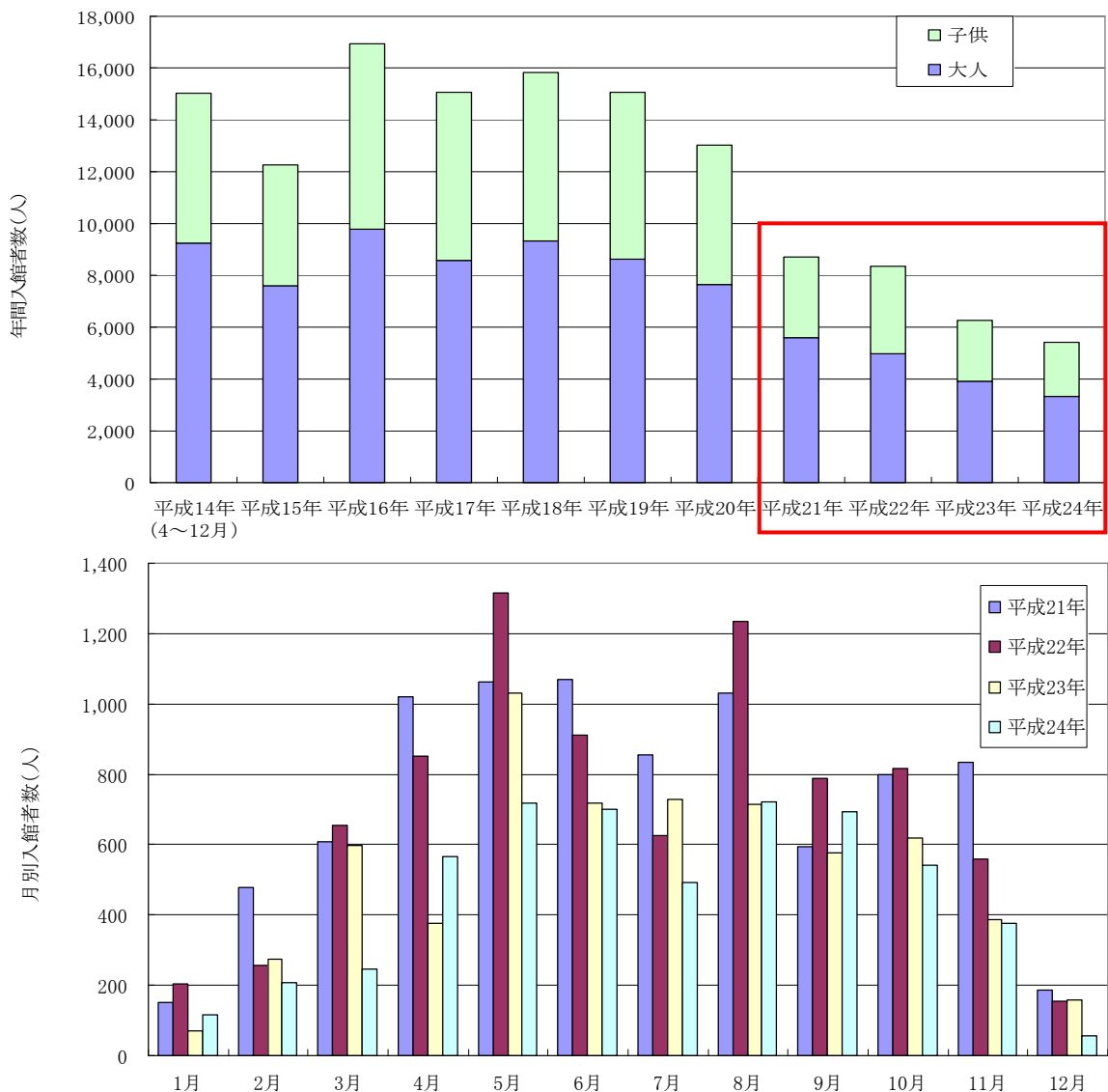
7.4.2 堰周辺の施設の利用状況

(1) 施設の利用状況

九頭竜川流域防災センターの平成14年4月27日の開館から平成24年12月31日までの入館者数の推移を下記に示す。

平成24年は5,432人が利用しており、平成14年4月27日の開館以来の総入館者数は10万人を超え、平成24年には累計131,951人となった(平成24年12月末時点)。年間入館者数は、平成20年までは年によって増減していたが、平成21年以降、入館者数が大きく減少している。これは、平成22年4月より九頭竜川流域防災センターに位置づけが変更となり、広報PRや開館日数を減らしたことが要因と考えられる。

月別入館者数をみると、大型連休のある5月と夏休みの8月に多く、12月から2月の冬期に少なくなる傾向がみられる。利用者の年齢層をみると、大人の割合が少し高く、本施設は子供から大人まで幅広い年齢層に利用されていることが分かる。



【出典：九頭竜川鳴鹿大堰フォローアップ平成24年次報告書】

図 7.4-7 九頭竜川流域防災センター入館者数 (H14年度～H24年度)

(2) 利用内容

九頭竜川流域防災センターでは、鳴鹿大堰と九頭竜川に親しみながら自然を学ぶための環境学習を実施している。平成24年度のイベントおよび環境学習の実施状況を表7.4-1に示す。

表 7.4-1 イベント・環境学習実施状況

月 日	イベント名	目的・内容
7/24 (火)	生物いっぱいいるかな？川の中 ～九頭竜川・北川の生き物調査～	河川に生息するサワガニ、カワゲラ等の水生生物（29種）を指標として水質を判定する。身近な自然に接することにより、子どもたちの環境問題への関心を高める。
8/19 (日)	第16回「九頭竜川に親しむ会」	「九頭竜川水系の河川保全と普及啓蒙」を目的し、小学生等を対象に河川に親しむとともに現状の河川環境を理解し考えることを通じて、今後の水系環境保全に役立てる。

【出典：第16回「九頭竜川に親しむ会」開催要項、福井河川国道事務所HP、福井新聞】


親子が魚釣りやアユのつかみ捕りを楽しむ「九頭竜川に親しむ会」が19日、永平寺町法寺岡の九頭竜川流域防災センターであった。

川や水に親しんでもらおうと水系環境の保全活動に取り組む「ドラゴンリバー交流会」などが毎年開催。地元の小学生ら親子100人が参加した。

子どもらは永平寺川で魚釣りに挑戦。竹ざおの先にミミズを付け、ウグイやカワムツなど約30匹をつり上げた。九頭竜川に設けた生けすでは、放流したアユ150匹のつかみ捕りを行い、素早く泳いで逃げるアユを、必死で追いかけていた。昼食ではアユの塩焼きなどを味わった。松岡小学校5年、寛和輝君(10)は「骨まで全部食べられておいしい」と喜んでいった。(古谷祥子)

永平寺町では「九頭竜川に親しむ会」

アユの塩焼きを堪能



アユの塩焼きをほおぼる児童ら。永平寺町法寺岡で

【出典：県民福井 平成24年8月20日】

7. 堰と周辺との関わり

(3) 利用者からの意見・要望

九頭竜川流域防災センターの利用者から平成 23 年から平成 24 年の間に寄せられた主な意見および要望を以下に整理した。

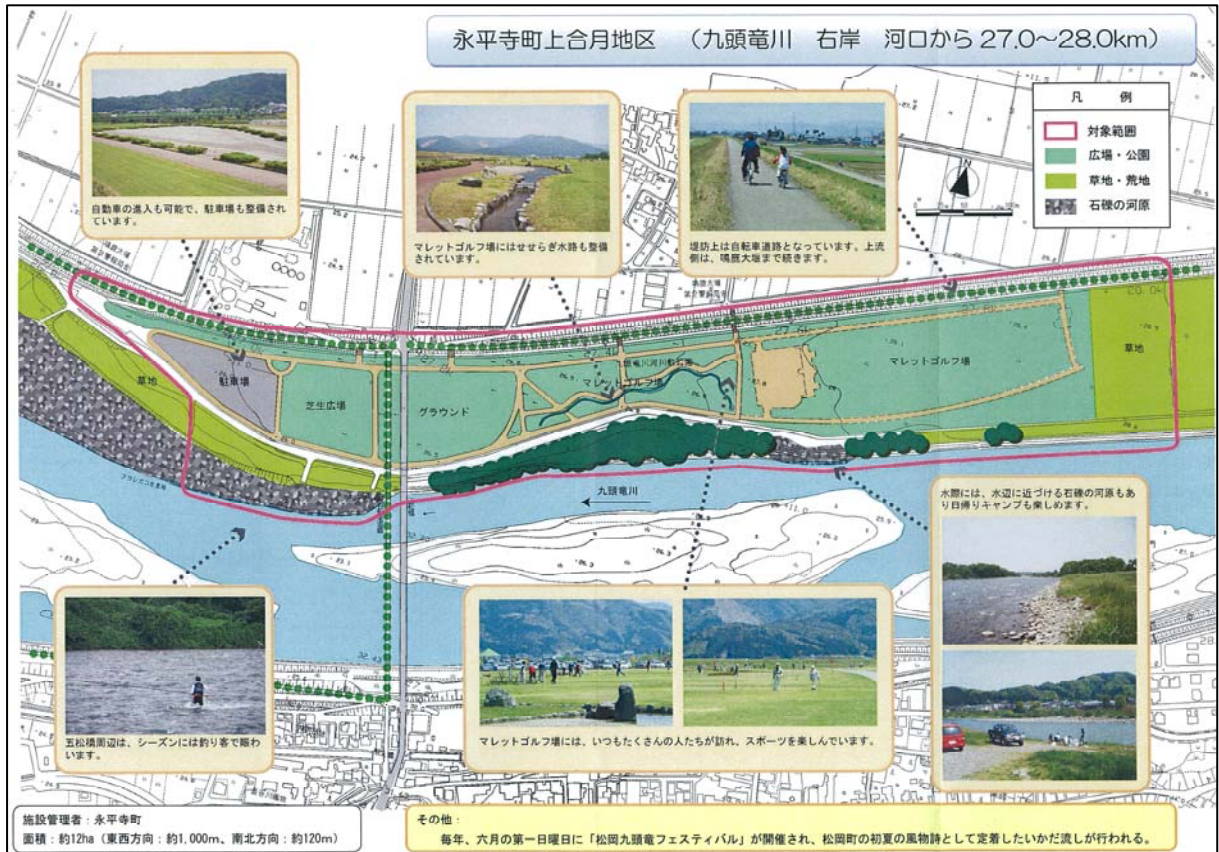
表 7.4-2 利用者からの意見・要望

施設	<ul style="list-style-type: none"> ・魚の図鑑を置いてほしい。 ・魚が釣れる体験ができる設備がほしい。 ・拡大鏡で小さな魚を見られるようにしてほしい。 ・水鳥を観察するには良い場所であり、もう少し倍率の良い双眼鏡を置いてほしい。 ・故障の設備を早急に直してほしい。 ・遊ぶところや水槽がもっとあったらいい。 ・きれいで楽しくて、とても満足した。もう少し遊具を増やしたほうがいい。 ・この辺りにきれいで安心して入れるトイレがあるのもありがたい。 ・建物近辺、自転車道路の草刈りをしてほしい。
展示内容	<p>【全般】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一つ一つの展示は知的好奇心をくすぐる内容だが、過去からの流れ、水害の脅威、治水技術の進歩、現在の最新設備の仕組みなどが理解できる仕組みに全くなっていない。 ・自然のこと（特に山のこと）がよくわかった。 ・読む内容が多すぎることに、子供向けの内容が多すぎる。 ・防災〇×クイズがよい。 ・コンピューターのカードゲームが楽しかった。もっと色んなゲームを増やしてほしい。 ・（三国町は河口のため）九頭竜川との関係がわかった。 ・子供たちを集め、サケ・サクラマス等の飼育、放流体験などの環境教育をこの施設で出来ると良い。
	<p>【展示物】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・触れる魚がいてほしい。 ・九頭竜川の自然に関する野鳥、植物の展示をしてほしい。 ・アクアリウムの魚の種類が分かりにくい。 ・魚をもっと増やしてほしい。
魚道観察室	<ul style="list-style-type: none"> ・魚道観察室についてもっと開放してほしい。 ・土日にも魚道のところを見学させてほしい。せめて7～8月のアユの遡上時期など限定でもいい。 ・魚道の観察窓に行けなかったのが残念。検討してほしい。 ・魚道の観察を出来るようにしてほしい。 ・魚道観察室カビくさい。炭を置くとかして臭いを消した方がよいのではないかな。
説明	<ul style="list-style-type: none"> ・ダムファンの為に資料を見せてくれたり、施設を開放してくれたりととてもよかった。 ・鳴鹿大堰の本体ゲートの仕組みについて、決定ボタンを押しても、機械は動いても説明は何もないので、何をしているのかさっぱり分からない。 ・角型水槽横のライブ映像スイッチ入れたが、立ち上がりせず、そのまま故障表示となっていた。
広報・PR	特になし

7.5 河川水辺の国勢調査（河川空間利用実態調査）結果

九頭竜川では、3年毎に河川水辺の国勢調査（河川空間利用実態調査）を行い、河川の利用状況を調査している。

鳴鹿大堰の近隣では、下流の九頭竜川河川敷公園（27.0～28.0km）において利用実態調査が行われている。同公園では、マレットゴルフ場を中心に芝生広場やせせらぎ水路等が整備されており、平成21年度調査によると、主に散策、マレットゴルフ、デイキャンプ、水遊び、魚釣り等に利用されている。利用者数は、推計値で62,168人となっている。



【出典：平成21年度九頭竜川水系河川水辺国勢調査業務河川空間利用実態調査報告書 平成22年3月】

図 7.5-1 鳴鹿大堰周辺の利用状況

表 7.5-1 九頭竜川河川敷公園（27.0～28.0km）の平成21年度年間利用者数（推計値）

	利用形態別				利用場所別				合計
	スポーツ	釣り	水遊び	散策等	水面	水際	高水敷	堤防	
利用者数	33,635	1,963	2,177	24,375	1,121	3,019	54,689	3,339	62,168

(単位 人)

【出典：平成21年度九頭竜川水系河川水辺国勢調査業務河川空間利用実態調査報告書 平成22年3月】

7. 堰と周辺との関わり

7.6 まとめ

7.6.1 堰と周辺地域との関わりのおまとめ

鳴鹿大堰が位置する九頭竜川流域では、人口は平成 12 年をピークに、産業別就業人口は平成 7 年をピークにそれぞれ減少に転じている。一方、観光面では流域内の観光入込客数が福井県内の約 7 割を占め、歴史・文化や水と緑などの自然に恵まれた観光地が多く点在している。また、鳴鹿大堰が立地する坂井市と永平寺町においては、九頭竜川を地域の資源として有効に活かした交流軸の形成や観光の振興等を地域づくりの目標に掲げている。

鳴鹿大堰の周辺では、鳴鹿大堰建設事業の一環として九頭竜川流域防災センターを整備して、九頭竜川に関する様々な資料を展示するとともに環境学習の場等として提供し、小学生以下の子供から大人まで幅広い年齢層に利用されている。九頭竜川流域防災センターは、近年では年間およそ 5,000 人強の利用者があり、開館以来の総入場者数は約 132,000 人に達している。

また、九頭竜川流域防災センター以外にも、管理所 1 階の鳴鹿大堰を紹介する展示や魚道観察室、旧鳴鹿堰堤を活かした見学橋などを整備し、周辺地域に暮らす人々、訪れる人々に活用されている。

7.6.2 今後の方針

地域のイベントや環境学習などの場を引き続き提供していくとともに、快適な利用のための維持管理を行っていく。

7.7 文献リスト

表 7.7-1 「7.堰と周辺地域との関わり」に使用した文献・資料リスト

NO.	文献・資料名	発行者・出典	発行年月	引用ページ・箇所
7-1	九頭竜川流域誌	近畿地方整備局 福井河川国道事務所	平成 14 年 3 月	7. 1. 1 堰周辺地域の概要 7. 1. 2 堰の立地特性
7-2	国勢調査結果(市町村の人口) 福井県ホームページ 福井県統計年鑑	福井県	(昭和 30 年～平成 22 年のデータ)	7. 1. 1 堰周辺地域の概要
7-3	岐阜県ホームページ 岐阜県統計書	岐阜県	(昭和 30 年～平成 22 年のデータ)	7. 1. 1 堰周辺地域の概要
7-4	国勢調査結果 (世帯数・産業別就業者数)	総務省統計局	(昭和 30 年～平成 22 年のデータ)	7. 1. 1 堰周辺地域の概要
7-5	九頭竜川鳴鹿大堰工事誌	近畿地方整備局 福井河川行動事務所	平成 18 年 3 月	7. 2 堰事業と地域社会情勢 の変遷
7-6	坂井市総合計画	坂井市	平成 20 年 3 月	7. 3. 1 地域における堰の位 置づけに関する整理
7-7	永平寺町総合振興計画	永平寺町	平成 20 年 3 月	7. 3. 1 地域における堰の位 置づけに関する整理
7-8	九頭竜川鳴鹿大堰モニタリング調 査報告書	財団法人 ダム水源地環境 整備センター	平成 17 年 3 月	7. 4. 1 堰周辺の施設状況
7-9	九頭竜川流域防災センターホーム ページ (http://www.river-can.go.jp/kuzuryu/index.htm)	近畿地方建設局 福井河川国道事務所	—	7. 4. 1 堰周辺の施設状況
7-10	九頭竜川鳴鹿大堰フォローアップ 平成 23 年次報告書	近畿地方整備局 福井河川国道事務所	平成 24 年 2 月	7. 4. 2 堰周辺の施設の利用状 況
7-11	九頭竜川鳴鹿大堰フォローアップ 平成 24 年次報告書	近畿地方整備局 福井河川国道事務所	平成 25 年 2 月	7. 4. 2 堰周辺の施設の利用状 況
7-12	平成 21 年度九頭竜川水系河川水辺 国勢調査業務河川空間利用実態調 査報告書		平成 22 年 3 月	7. 6 河川水辺の国勢調査(河 川空間利用実態調査) 結果